

令和7（2025）年度

学校自己評価報告書

学校法人 中島学園 熊本歯科技術専門学校

目 次

I	令和7（2025）年度の重点目標と達成計画.....	1
II	評価項目の達成および取り組み状況.....	2
	1. 教育理念・目標・人材育成像.....	2
	2. 学校運営.....	3
	3. 教育活動・学修成果.....	4
	4. 学生支援.....	5
	5. 教育環境.....	6
	6. 学生の受入れ募集.....	7
	7. 財務.....	8
	8. 法令等の遵守.....	9
	9. 社会貢献・地域貢献.....	10
III	学生アンケート結果（在校生および卒業生、卒業生保護者）.....	11

I 令和7（2025）年度の重点目標と達成計画

1. 学校の教育目標

【教育理念】

高い技術力と人間力を兼ね備え、感謝とチャレンジ精神を持って歯と口から地域の人々の健康に貢献する歯科医療従事者を育成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

○ 国家試験合格率並びに卒業率の維持

- ・「歯科技工士国家試験」・「歯科衛生士国家試験」ともに合格率 100%
- ・卒業率 100%（退学率 0%）

○ 就職率の向上並びに関連業界等との連携

- ・就職率 100%
- ・学校と歯科医院、技工所、企業等、実習施設との連携を密にし、質の良い実習を学生に提供することで、実践力のある「歯科技工士」「歯科衛生士」を養成する。

○ 安定した入学生の確保

- ・広告媒体を増やし、SNSの効果的な使用を行うことにより、歯科技工士・歯科衛生士そして学校としての認知度を上げる取り組みを引き続き行う。入学定員充足率80%以上を目指す。

II 評価項目の達成および取り組み状況

1. 教育理念・目標・人材育成像

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	教育理念・教育目標・育成人材像は明確に定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色を打ち出し、実践しているか	3
3	教育理念・教育目標は教職員・学生に対して周知されているか	3
4	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

(1) 現状と課題

学校の理念・教育目的・育成人材像については、教職員間で概ね共有されており、学生や保護者に対しても学生生活ガイドブックの配布等を通じて周知を図っている。また、臨地・臨床実習施設の指導者とは年2回の情報交換会を実施し、教育内容の理解促進と連携強化に努めている。

一方で、学校評価の結果からは、専門分野としての特性や職業教育としての特色を十分に打ち出し切れていない点が課題として示されている。特に、歯科医療分野では少子高齢化に伴い需要が高まっているにもかかわらず、若年従事者の慢性的な不足が続いている。この状況に対応し、入学者を安定的に確保するためには、歯科医療専門職教育機関としての強みや学科ごとの育成人材像を業界ニーズとより強く結びつけながら、より明確かつ効果的に発信していく必要がある。

(2) 今後の改善方策

今後の改善方策としては、まず教育理念・教育目標・育成人材像の周知方法を再検討する必要がある。現在も学校案内、ガイダンス、オープンキャンパス等を通じて情報提供を行っているものの、学校評価の結果からは十分に浸透しているとは言い難い面が示されている。したがって、学生や保護者に対して理念や専門分野の特性をより効果的に伝える機会を増やし、理解促進につながる工夫を講じることが求められる。

また、育成人材像が業界ニーズに適切に対応しているかを継続的に検証するため、臨地・臨床実習施設を中心とした医療施設や業界との連携を一層強化する必要がある。業界動向の把握や情報収集を継続的に行い、教育内容に反映させることで、専門職教育機関としての特色をより明確に打ち出すことができる。

さらに、知識・技術の習得に加えて、人間性の育成も重要な教育目標であることから、社会人としてのマナーや身だしなみ等について初年度教育での指導を徹底し、歯科業界が求める水準に対応できる人材の育成を図る必要がある。特に歯科衛生士科においては、実習機関巡回の機会を活かして業界の動きやニーズを継続的に把握し、教育内容の改善と人材育成の質向上につなげていくことが重要である。

2. 学校運営

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	目的・目標等にあった学校運営方針が策定され、また各種諸規定・規則等の整備がなされているか	4
2	運営組織や意思決定機関は、有効かつ効率的に機能しているか	4
3	人事・給与等に関する制度は整備されているか	3
4	教育活動に関する情報公開が適切に行われているか	4
5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

(1) 現状と課題

学校運営については、学校長より学校運営方針が適切に提示され、月2回の定例職員会議を通して教職員へ確実に共有される体制が整っている。また、教務会議において組織としての意思決定が効率的に行われており、教職員同士も日常的に連携を図りながら円滑な学校運営に努めている。

一方で、歯科衛生士科においては教員数の不足が依然として大きな課題として残っている。

各種諸規定・規則等については、状況に応じた見直しを継続的に行い、本年度中に必要な整備を完了した。また、情報公開については、学校ホームページを通じて常時適切に行っている。

さらに、本年度末には新たな給与システムおよび教務システムの導入がスタートし、新年度からの情報管理の強化と業務効率化が期待される。

(2) 今後の改善方策

定例職員会議については、発言の場を増やし、議論の質を高めることで内容をより充実させ、職員間の風通しを良くする環境づくりを進める必要がある。また、歯科技工士科・歯科衛生士科・事務部門の連携を一層強化し、組織全体としての協働体制を整えていく。特に歯科衛生士科においては、適切な職員配置を図ることが重要な課題である。

人事および給与制度の見直しについては、昨年度からの取り組みを継続し、より適切な制度運用を目指す。教職員の平均年齢が上昇している現状を踏まえ、20～30代の若手育成と人材確保が急務である。採用にあたっては、設置基準を満たすことに加え、専門的な技術・知識、指導力、人間性など、必要な資質を備えた教職員の確保に努める。

また、新たに導入される教務システムについては、効果的な活用方法を検討し、業務の効率化を図ることが今後の課題である。情報公開については、これまで通り学校ホームページを活用し、適切な情報発信を継続する。

3. 教育活動・学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	教育理念・教育目標の沿ったカリキュラムが策定されているか	3
2	1に示すカリキュラムは定期的な見直しが行われているか	3
3	カリキュラムは教職員および学生に周知されているか	4
4	授業に対する評価・点検の体制および実施が行われているか	3
5	成績評価・進級・卒業の基準は明確であるか	4
6	国家試験合格率の目標を設定するとともに、取得向上に向けての取り組みが図られているか	4
7	退学率の低減が図られているか、また低減に向けての取り組みは教職員間で共有されているか	3
8	就職率の向上が図られているか	4

(1) 現状と課題

令和7年度の国家試験合格率は、歯科技工士科 100%、歯科衛生士科 100%であり、いずれも現役全員合格を達成した。特に歯科技工士科は6年連続で100%を達成している。卒業年次に実施している本校独自の国家試験対策（校内模試、全国模試、外部団体による特別授業）に加え、入学時からの基礎教育の充実が高い合格実績につながっている。

成績評価・進級・卒業の基準については、各種規程・規則に明記し、本年度中に必要な整備を完了した。ただし、進級判定の実施時期については、より適切な時期設定を検討している。

また、「退学者0（ゼロ）」を目標として教職員間で共有し取り組んでいるものの、進路変更やメンタル面の不調などを理由とした1年次の退学者が依然として大きな課題となっている。

就職状況については、両科ともに就職率100%を継続している。しかし、就職後の状況については組織的な把握が十分ではないのが現状であるが、常に就職先との連携を図ることで、卒業生についての情報収集を行っている。就職活動支援については、就職活動の流れ、履歴書の書き方、面接のポイント、オンライン面接（Zoom）への対応などを実施しており、現状の内容で問題なく対応できている。

(2) 今後の改善方策

国家試験合格率については、これまで実施してきた校内模試・全国模試に加え、外部団体による特別授業をさらに活用し、その実施回数を増やすことで、引き続き高い合格率を維持していく。

また、入学時からの基礎教育の充実が成果につながっていることから、基礎学力の定着を図る取り組みも継続・強化する。次年度は校内のWi-Fi環境整備を進め、新たな学習システムの導入を図ることで、ICTを活用した学習環境の向上を目指す。

教育の質向上については、授業評価の実施に向けた準備を進めており、学校全体として教員の技術力・対応力・資質の向上を図る体制を整えていく。

退学者の発生については、特に1年次の進路変更やメンタル面の不調が課題となっているため、「退学者0（ゼロ）」の目標達成に向け、学生のメンタルサポート体制の強化や早期支援につながる仕組みづくりが求められる。

就職支援については、現状の取り組みで一定の成果が得られているものの、卒業後の状況を組織的に把握できていない点が課題である。今後は卒業生のフォローアップ体制を整備し、就職後の状況を継続的に把握する仕組みを検討することで、教育内容や支援体制の改善に活かしていく。

4. 学生支援

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	進路（就職）および学生生活に関する相談・カウンセリングに関する体制が整備され、潤滑な運営が定期的に行われているか	3
2	奨学金等の経済的支援制度が整備され、支給から返還までの手続きが確立されているか	4
3	健康管理についての指導および支援の体制は整っているか	3
4	不慮の事故など、在学中の学生生活に係る災害に対して、保険に加入しているか	4
5	保護者との連携（情報提供等）がなされているか	3
6	卒業生に対しての支援体制があるか	3

（1）現状と課題

本校では担任制のもと、各科の特性に応じた支援体制を整え、きめ細かな学生支援を行っている。学生から相談があった場合には、学科および事務職員間で速やかに情報共有を行い、迅速な対応に努めている。

奨学金制度については、日本学生支援機構（JASSO）をはじめとする各種公的奨学金に加え、歯科医院による奨学金も選択肢の一つとして活用されている。担当者が支給から返還までの流れを丁寧に説明し、手続きは円滑に実施されている。

校納金については原則一括納入としているが、分割納入を希望する学生には柔軟に対応している。また、不慮の事故など、在学中の学生生活に関わる災害に備えた保険についても、十分な対応が可能な体制を整えている。

さらに、各担任が保護者と連携し、問題が発生した際には速やかに情報共有を行うことで、学生支援の充実を図っている。

（2）今後の改善方策

成績不良や出席不良による留年・退学を防止するためには、これまで以上に保護者または保証人との連絡を密にし、家庭での生活習慣の改善を促すことが重要である。特に、自宅での学習習慣の確立や、スマートフォン依存からの脱却を支援する取り組みが求められる。また、メンタル面の不調が学業に影響を及ぼすケースも増えていることから、カウンセリングの積極的な活用を促し、早期対応を徹底する必要がある。

さらに、近年は奨学金や修学支援金の申込者が増加していることから、校納金に関する案内を早期に行うなど、学生および保護者が計画的に準備できるような運営体制の見直しも必要である。奨学金担当者と担任が連携し、申請スケジュールや必要書類の周知を徹底することで、手続きの円滑化を図る。急増している「国の高等教育修学支援新制度（無償化）」など、各種減免制度の表記も含めて、校納金の案内について見直しを行う。

これらの取り組みを通じて、学生が安心して学業に専念できる環境を一層整備し、組織として持続的な学生支援体制を構築していくことが求められる。

5. 教育環境

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	教室・実習室等は、室数・広さともに教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	3
2	学生が実習等を行う上で、教室を含めた諸施設を提供（開放）しているか	3
3	休憩室等のスペースが置かれているか	4
4	防災に対する設備・非常時の体制は整備されているか	3

(1) 現状と課題

施設・設備の整備については、厚生労働省の指導の下、情報機器、実習機器、学習用具などを必要台数確保し、教育活動に支障のない環境を維持している。特に、学生が日常的に使用する機器については、授業や実習に十分対応できる体制を整えている。

一方で、開設時に導入した実習機器や用具の中には、経年劣化による故障や破損が見られ、更新時期を迎えているものも少なくない。本年度は、ユニットの一部交換に向けた打ち合わせを実施し、次年度に向けて計画的な更新を進めている。教育の質を継続的に担保するためにも、教育機器については中・長期的な視点に立った更新計画を策定し、順次整備を進めているところである。

また、学生が快適に学習・休憩できる環境づくりにも取り組んでおり、学生ホールや空き教室を常時開放し、自主学習やリフレッシュの場として活用している。これにより、学生の学習意欲向上やコミュニケーションの活性化にも寄与している。

さらに、防災面では、年1回の消防避難訓練を継続して実施し、学生・教職員の防災意識の向上と、緊急時に迅速かつ安全に行動できる体制づくりに努めている。

(2) 今後の改善方策

今後も、教育活動に支障が生じないよう、機器・用具については日常的な点検を徹底し、定期的な確認を行う体制を継続していく。特に、開設時から使用している実習機器の中には更新時期を迎えているものも多いため、故障や破損の早期発見と計画的な更新を進めることが重要である。

教育機器や、養成施設指定規則で定められている教育物品については、教育の質を安定的に確保するため、中・長期的な更新計画に基づき順次整備を行う。また、施設全体の環境改善にも継続して取り組み、建物内外のリニューアルを計画的に実施することで、学生が安心して学べる環境づくりを推進する。これらの取り組みを通じて、教育の質と学習環境の双方を継続的に改善し、より充実した教育体制の構築を目指す。

6. 学生の受入れ募集

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	学生募集計画を策定し、適宜実施されているか	4
2	学校案内・募集要項の内容は志願者が必要とする内容が掲載され、かつ内容は適切なものになっているか	4
3	学生募集に対する対応等、体制は整っているか	4
4	オープンキャンパス・体験入学の回数や時期、また実施する内容は参加者（志願者）が学校を把握するに十分なものとなっているか	4
5	志願者状況はどうか、また定員充足率は満足できるものであるか	3

(1) 現状と課題

学生募集に関しては、オープンキャンパス実施後に参加者アンケートを行い、その結果や参加者データを分析して募集活動へ反映する取り組みが定着している。学校案内や募集要項については、高校生の視点を意識し、次年度はさらに明るく分かりやすいデザインへリニューアルを行った。また、Z世代に対応したSNSを活用し、リアルタイムでの情報発信を進めるとともに、学園独自のセキュリティポリシーやガイドラインを遵守した運用が行われている。

入学選考では、総合型選抜入試の次年度運用に向けて、スケジュールや選考方法の見直しを段階的に進めてきた。これらの取り組みにより、学生定員充足率は次年度に80%を達成するなど一定の成果が見られる。

一方で、さらなる充足率向上に向けては、オープンキャンパスの内容強化や広報手法の多様化、志願者層の拡大に向けた戦略的な情報発信が課題として残る。今後も効果的な募集活動を継続し、志願者にとって魅力的で分かりやすい情報提供体制の充実を図る必要がある。

(2) 今後の改善方策

今後の学生募集活動においては、これまで蓄積してきたオープンキャンパス参加者データやアンケート結果をより精緻に分析し、志願者層のニーズに応じた情報提供を強化する必要がある。

特に、Z世代の情報収集行動を踏まえ、SNSを活用した広報活動の頻度を増やすとともに、投稿内容の質を高め、学校の魅力がより伝わる発信体制を整備することが求められる。

また、オープンキャンパスについては、参加者が学校生活や学びの特徴を具体的にイメージできるよう、プログラム内容の充実を図る。年間の開催回数や時期についても、志願者が参加しやすいスケジュールを検討し、より多くの高校生にアプローチできる機会を確保する。

入学選考に関しては、総合型選抜入試の運用改善を継続し、選考方法や評価基準の明確化を進めることで、受験生にとって分かりやすく公平性の高い入試体制を構築する。さらに、定員充足率の向上に向けて、広報戦略の多様化や地域との連携強化を図り、志願者層の拡大を目指す。

これらの取り組みを継続的に実施することで、より効果的な学生募集活動を展開し、学校の魅力を的確に伝える体制の強化を図っていく。

7. 財務

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

(1) 現状と課題

本校では、毎年度の初めに予算を編成し、教育活動の方針や学校運営の重点事項を踏まえた計画的な財務運営を行っている。予算執行にあたっては、各部門との調整を図りながら適正な管理を徹底しており、安定した財務運営を維持している。

また、学園（法人）監査による会計監査も毎年適正に実施されており、財務処理の透明性・信頼性の確保に努めている。さらに、関係法令の遵守や監督官庁への報告等についても、期限を守りながら適切に対応しており、コンプライアンス体制は概ね整っている。

一方で、広報活動費や校舎の維持管理費、ICT環境整備費など、学校運営に不可欠な経費は年々増加傾向にあり、これらを安定的に確保することが中長期的な課題となっている。特に、少子化の進行による学生募集環境の変化や教育内容の高度化に伴う設備投資の必要性など、外部環境の影響を受けやすい状況にあるため、財務基盤の強化は重要な課題である。

今後は、より精緻な収支見通しの作成や費用対効果を踏まえた予算配分の最適化に加え、補助金の活用、広報戦略の強化による安定した学生数の確保など、多角的な視点から財源確保に取り組む必要がある。これらを通じて、中長期的に持続可能な財務体制を構築していくことが求められる。

(2) 今後の改善方策

学校法人は公共性・公益性が高く、社会から大きな責任を期待されている。そのため、本校では全教職員が経営や財務の視点についても理解を深め、一人ひとりが自覚を持って日々の職務に取り組める環境づくりを進めていくことが重要である。

今後は、学園全体の財務状況を常に把握し、健全な運営を維持するための取り組みをさらに強化していく。特に、安定した財務基盤を築くためには、入学定員充足率80%以上を継続して確保することが大きな目標となる。そのため、広報活動の充実や学校の魅力発信の強化を図り、地域や保護者から選ばれる学校づくりを進めていく。

また、校舎の維持管理費やICT環境整備費など、今後も必要となる経費については、計画的な予算確保と効率的な運用を心がける。補助金の活用など、多様な財源確保の方法も積極的に検討していく。

さらに、財務情報の適切な公開や説明責任を果たすことで、学校運営の透明性を高め、保護者や地域からの信頼をより強固なものにしていく。これらの取り組みを通して、教育の質を維持・向上させながら、持続可能な学校運営を実現していきたい。

8. 法令等の遵守

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	法令・専修学校設置基準の遵守がなされているか	4
2	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	4

(1) 現状と課題

法令および専修学校設置基準を適切に遵守し、学校運営は概ね良好に行われている。また、個人情報を含むデータ管理についても、十分なセキュリティ対策が講じられており、適正な管理体制が確立している。

一方で、自己評価の実施は継続的に行われているものの、評価結果を踏まえた改善の取り組みについては、さらなる具体化と体系化が求められる。自己評価結果の公開は適切に実施されているため、今後は公開内容と改善サイクルの連動を強化し、より質の高い学校運営につなげていくことが課題である。

(2) 今後の改善方策

学校評価委員会を各年度開催し、自己評価結果をもとにした改善点について、より具体的かつ継続的な検討を行う。特に、自己評価で明らかになった課題を体系的に整理し、改善策の実施状況を定期的に確認する仕組みを強化することで、評価と改善が連動した運営体制を確立する。

また、第三者評価委員会による外部の視点を積極的に取り入れ、自己評価では見えにくい課題や改善の方向性について客観的な助言を得る体制を整える。

評価結果の公開内容についても、改善の進捗が分かりやすく示されるよう工夫し、透明性と信頼性の向上を図る。学校評価委員会を各年度複数回開催し、問題点に関しての更なる検討・改善に努める。

9. 社会貢献・地域貢献

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

No.	評価項目	評定
1	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
2	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか	3

(1) 現状と課題

本校では、特別講義やキャリアガイダンスの実施、高校生を対象とした職業体験の受け入れなど、教育資源を活用した地域貢献に積極的に取り組んでいる。また、歯科医療現場に限らず、地域の保健センター、障がい者施設、歯の祭典、笑顔ヘルシキャンペーンイベントなど外部団体が主催するイベント等において歯科保健指導を行うなど、学生が地域と関わる機会を幅広く提供している。これらの活動は、学生のボランティア精神の育成や地域との連携強化に寄与している。

一方で、学生の自主的なボランティア参加をさらに促進するためには、活動内容の多様化や参加しやすい環境整備が求められる。また、学校としての社会貢献活動をより体系的に位置づけ、継続的な取り組みとして発展させるための仕組みづくりが今後の課題である。

(2) 今後の改善方策

本校では、建学の精神に基づき、学生のボランティア活動を積極的に奨励・支援してきた。今後も、学生の自主性を尊重しつつ、地域の保健センターや障がい者施設、外部団体などから寄せられるボランティア依頼については、引き続き学生へ積極的に情報提供を行い、参加の機会を広げていく。また、活動内容の多様化や参加しやすい環境整備を進めることで、学生が主体的に地域貢献へ関わる姿勢をさらに育成したい。

さらに、学校としての社会貢献活動を体系的に整理し、教育課程との関連性を明確にすることで、継続的かつ発展的な取り組みへとつなげていく。これらの側面的支援を強化することで、学生のボランティア精神の涵養と地域との連携強化を一層推進していく。

Ⅲ 学生アンケート結果（在校生および卒業生、卒業生保護者）

本校ホームページ上にGoogleフォームで作成したアンケートに各自回答する方法で、最大が4.0となっている。

(1) 在校生アンケート(2026年3月実施)

(DT…歯科技工士科、DH…歯科衛生士科とし、数字は学年を表す)

		DT 1	DH 1	DH 2
①	実習や国家資格取得の教育を中心に、他校にない専門学校の特色を活かしているか。	3.39	2.97	2.51
②	専任教員は、熱心に学生の指導に取り組み、授業にも工夫がなされているか。	3.50	3.11	2.32
③	外部講師は、熱心に学生の指導に取り組み、授業にも工夫がなされているか。	3.22	3.34	3.15
④	教育課程・学習内容は卒業後の希望を実現できるものになっていると思うか。	3.28	3.23	2.68
⑤	成績不振者への指導・支援が十分に行われているか。	3.22	2.89	2.71
⑥	学生の希望に応じた進路に関する指導が行われているか。	3.06	3.06	2.54
⑦	学校生活を通して、生活指導が適切に行われているか。	3.28	3.23	2.66
⑧	新入生歓迎会、スポーツ大会、研修会、講演会などの学校行事は、内容が充実しているか。	3.17	3.20	3.05
⑨	ホームページ等のSNSを通して、保護者や外部の方々に、必要な情報を提供できていると思うか。	3.33	3.14	2.90
⑩	施設・設備は、安全で快適な学校生活ができるように整備されているか。	3.17	3.09	2.39
⑪	交通安全、防災、感染症防止等に関する対策や安全教育が適切に行われているか。	3.22	3.17	2.71
⑫	本校の教育活動は、総合評価すると満足できるか。	3.22	3.11	2.39

(2) 卒業生アンケート(2026年3月実施)

(DT…歯科技工士科、DH…歯科衛生士科とし、数字は学年を表す)

		DT 2	DH 3
①	実習や国家資格取得の教育を中心に、他校にない専門学校の特色を活かしているか。	3.56	2.24
②	教員は、熱心に学生の指導に取り組み、授業にも工夫がなされているか。	3.89	2.18
③	教育課程・学習内容は卒業後の希望を実現できるものになっていると思うか。	3.56	2.56
④	成績不振者への指導・支援が十分に行われているか。	3.78	2.74
⑤	学生の希望に応じた進路に関する指導が行われているか。	3.78	2.41
⑥	基本的な生活習慣が身につけられるように、生活指導が適切に行われているか。	3.44	2.53
⑦	新入生歓迎会、スポーツ大会、研修会、修学旅行、講演会などの学校行事は、内容が充実しているか。	3.33	2.82
⑧	ホームページ等のSNSを通して、保護者や外部の方々に、必要な情報を提供できていると思うか。	3.44	2.56
⑨	施設・設備は、安全で快適な学校生活ができるように整備されているか。	3.67	2.21
⑩	交通安全、防災、感染症防止等に関する対策や安全教育が適切に行われているか。	3.67	2.59
⑪	本校の教育活動は、総合評価すると満足できるか。	3.67	2.18

(3) 卒業生保護者アンケート(2026年3月実施)

(DT…歯科技工士科、DH…歯科衛生士科とする)

		DT保護者	DH保護者
①	学校が目指している教育方針や教育理念などある程度理解していた。	3.25	2.91
②	学校は学生の教育活動（成績・出席状況など）の様子を適時知らせていた。	3.75	3.30
③	学生が満足するよう、学校生活の工夫を行っていた。	3.25	2.82
④	教職員は職責感をもって、指導の充実に努力していた。	3.25	3.06
⑤	教職員は学生・保護者に誠意をもって接していた。	3.25	3.06
⑥	国家資格取得のための指導は適切に行われていた。	4.00	2.97
⑦	学生の相談に関する体制が整備され、有効に機能していた。	3.25	2.82
⑧	学生が主体的に選択できる適切な情報（進路・就職など）の提供が行われていた。	3.50	2.85
⑨	学校の施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されていた。	3.25	2.82
⑩	本校在学中の学納金は適切であった。	3.00	2.79
⑪	この学校に入学させてよかったと思う。	3.75	3.15